

症例では加齢に伴い心房粗細動・逆流性弁膜疾患の合併率が増加し、術後の回復も遅延することが示唆された。

高齢者 ASD 症例では、手術の危険度も考慮すると無症状でも早期手術が適応となるものと思われる。

一 般 演 題

1) 心エコー図で cystic な所見を呈した左房内腫瘍の 1 例

石黒 淳司・小玉 誠 (新潟こぼり病院)  
土谷 厚・矢沢 良光 (循環器内科)  
坂内 省吾・小沢 武文 (聖園病院 内科)

症例は、66才男性。主訴は動悸及び夜間起坐呼吸。家族歴に特記すべき事はなし。既往歴は22才頃に肋膜炎、肺炎にて入院治療を受けた。現病歴は、昭和62年夏頃より動悸、息切れが起きるようになった。11月頃より労作時呼吸困難及び咳嗽、喀痰を認めるようになった。徐々に夜間起坐呼吸、食欲不振となり11月20日某病院を受診した。そこで心不全、左房内腫瘍を指摘され入院となった。その後11月26日手術目的にて当院転院となった。入院時理学的及び検査所見は、両肺野の湿性ラ音、心収縮期雑音及びIV音を認めた。胸部X線写真で胸水、右肺気腫、左肺陰影及び肺紋理の増強を認めた。肝逸脱酵素の軽度上昇。腫瘍マーカーの上昇は認められなかった。心エコーにて、左房内に約3×5×4 cm の腫瘍を認め拡張期に左房内に嵌頓しかかっていた。その内部に cyst を認めた。このように cyst を有する心房内腫瘍はきわめて稀であり当院での心房内腫瘍の4例と共に提示する。

2) 先天性冠動脈瘻の外科治療

金沢 宏・宮村 治男 (新潟大学第二外科)  
江口 昭治

教室で経験した先天性冠動脈瘻手術例は6例である。右冠動脈右室瘻3例、右冠動脈左室瘻2例、左冠動脈回旋枝(側枝)右房瘻1例である。最近手術を施行した左冠動脈回旋枝右房瘻と右冠動脈右室瘻の計3例の映画を供覧する。

左冠動脈回旋枝右房瘻症例では、体外循環下に右房を切開し、瘻孔を右房内より閉鎖した。術後1年の冠動脈造影では流入動脈は拡大したままであり、瘻孔部の瘤が残存していた。右冠動脈右室瘻の2例では、術前の冠動脈造影で右冠動脈の拡大と瘻孔部の動脈瘤をみとめた。手術は体外循環下に瘤を切開し、瘤内より瘻孔を閉鎖し瘤も縫縮した。術後の冠動脈造影では右冠動脈の拡大は消失していた。

3) A-C バイパス術 250 例の経験

春谷 重孝・鈴木 万里 (立川総合病院)  
山本 和男・中沢 聡 (胸部外科)  
片桐 幹夫・坂下 勲

昭和57年より本格的に A-C バイパス術を行って以来、昭和62年までに250例に達した。

手術時年齢、冠動脈病変枝数、移植グラフト数は年次毎に増加傾向を示した。手術死亡は250例中10例、4%であったが、このうち7例は緊急手術例であった。昭和58年より PTCR、昭和59年より PTCA を開始したが、この2年間の A-C バイパス症例は著しく増加し、特に緊急手術例は50%近くにも達した。その後 PTCA の発達とともに緊急手術例は減少したが PTCA 後の A-C バイパス症例が増加した。最近 LAD へは積極的に IMA グラフトを用い良好な結果を得ている。手術死亡や Perioperative myocardial infarction の頻度の高い PTCA 後の緊急手術例を除けば、成績は満足すべきものであった。

第47回新潟消化器病研究会

日 時 昭和63年2月27日(土)  
午後1時30分より  
会 場 新潟ワシントンホテル

一 般 演 題

1) 食道癌の食道気管支瘻症例における体内人工食道チューブの1使用例

朴 鐘千・山本 賢 (田代消化器科病院)  
田代 成元 (内科)

症例は57才の男性、咳を主訴として近医受診、治療を受けていたが胸部X線にて右胸水出現した為紹介され当院入院した。入院後嚥下困難を訴えた為食道透視を施行、Im から Ei にかけてラセン型の食道癌を認め、右 S<sub>6</sub> への食道気管支瘻も認めた。絶食、IVH により様子を見ていたが、咳嗽が増強してきた為食道内挿管の適応と考え、住友ベークライト社製人工食道を内視鏡をガイドとして挿入した。挿入後経口摂取可能となり、咳嗽も軽快し、約6週間軽度の異和感のみで良好に経過した後、序々に全身状態悪化し死亡した。食道気管支瘻に対する食道内挿管法は、患者のクオリティオブライフを高めるのに極めて有用であると思われた。